

鉄道博物館高輪築堤に関する常設展示の開始について

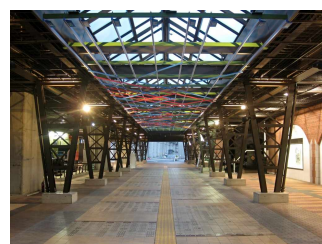
本年で鉄道が開業150年を迎えたことを記念して、明治5(1872)年に日本初の鉄道が開業した際に海上に線路を敷設するために築かれた鉄道構造物である「高輪築堤」※令和2(2020)年出土に関する常設展示を開始いたします。

1 展示開始日 2022年12月21日(水)

2 展示内容

(1) プロムナードでの実物展示

鉄道博物館に入場するプロムナードにて、高輪築堤で実際に隣り合っていた築堤石4個を、並べて展示し一部再現した状態でご覧いただけます。



(2) 車両ステーションでの模型展示と実物展示

館内車両ステーション1号機関車前で、高輪築堤の敷設全貌と築堤部の内部構造がわかる模型を解説付きで展示するほか、実物の築堤石も併せて展示します。



上)プロムナード下)1号機関車前

3 高輪築堤とは

高輪築堤は1872(明治5)年の新橋～横浜間の鉄道開業に際して、現在の田町駅北部(芝浦周辺)から旧品川駅にかけての約2.7kmの区間の海上に築かれた築堤で、海の上を走る鉄道として開業当時の鉄道名所となり、新橋停車場とともに文明開化の象徴となった。大正時代におけるこのエリアの産業の拡大・発展に伴い、東京湾埋め立て事業が進み、高輪築堤はその姿を消したが、品川駅周辺のまちづくりにとともなう調査によりその遺構が検出され、一部については2021(令和3)年9月に「旧新橋停車場跡及び高輪築堤跡」として国史跡に指定された。



錦絵に描かれた高輪築堤(「東京品川海辺蒸気車鉄道之真景」)



発掘調査により検出された高輪築堤第7橋梁の遺構

※内容は新型コロナウイルス感染症拡大防止の事由等により予告なく変更または中止となる場合がございます。